



創立70周年記念全校集会

おかげさまで、10月23日（日）本校は創立70周年を迎えることができました。

10月21日（金）創立70周年記念全校集会を本校体育館で行いました。内容は次のとおりです。

実行委員長のお祝いのことば

一言ご挨拶を申し上げます。

本校は、本年、平成23年に創立70周年を迎えることができました。

誠におめでとうございます。こころよりお祝い申し上げます。

70年の歳月は、自然豊かなこの鶴見の丘、“鶴陵”において、先達の皆さまと共に、築かれました。

こうして70周年を迎えられるのも、本校の発展を支えて頂きました多くの皆さまのお力添えの賜物でございます。ここに深く感謝の意を表す次第であります。

ひとえに70年という年月は、1期より70期まで、親子三世代にも渡る永きものでございます。そこには、確かな歴史の重みと伝統が存在いたします。

生徒の皆さんは、その歴史や伝統を意識する機会が、今まで少なかったのではないかと思います。皆さん自身、その歴史の流れの一環に身を置いていることを、この機会に是非、認識して頂きたい。このように思います。

時の流れは、今、現在、この一瞬、一瞬の連続、その連なりで成り立っています。今というものは、またたく間に過ぎ去り、蓄積され、過去として歴史の基礎へとかたちを変えていきます。

また、その一瞬、一瞬の今に費やされた情熱が、脈々と継承され、“ある種の方向性”が見出されたもの、それらが伝統へ結び付くのであらうと思います。

皆さんは、先輩、後輩たちと時間を共有しながら、学業に、部活動等に様々なものに、与えられるもの、と、自ら得たいもの、に対して正面から向き合いながら、日々に生き、伝え合い、影響し合い成長しています。それは、永い歴史の中で、代々、繰り返され、継承され、鎖の如く連なり、遙か昔より現在までひとつに繋がれています。その時々時代に仲間どおし互いの信頼感、感謝の気持ちを持ちながら。

人を思いやる気持ちが、感謝の心のかたちが、“絆”として70学年を結び付けているのです。その絆は、県鶴DNAとして、皆さんの心の中に深く刻み込まれ、時間が経過しても決して失われるものではなく、人生のうちで最も尊いものひとつに成り得るでしょう。

70年を振り返る。過去を振り返る。それは、今の自分は積み重ねられた尊い礎があればこそその存在であることを実感す



る機会でもありましょう。その過去を顧みることが、未来に向かう力と勇気が得られ、未来を展望する希望をも養われるのです。

わたくしは、皆さんが高校生活の今“与えられるもの”と“自ら求めるもの”の両輪に心血を注いで過去を思えて今に生き未来を展望できる思いやりのある人物に成長され将来の県鶴生を支えるしっかりとした土台と成られることを願って止みません。

最後に、繰り返しとなりますが、創立以来70年の永きに渡り、ご支援ご協力頂きました地域の皆さま、同窓会、PTAの皆さまに感謝し、御礼を申し上げますと共に、本校が皆さまと尚一層の連携を図りながら、磨き輝き、益々発展されますことを祈念いたしまして、挨拶のことばといたします。

校長のことば

～創立70周年記念集会によせて～

県鶴生諸君よ、誇りを持て！

本年、県立鶴見高等学校は創立70周年を迎えました。人間なら古希です。

挨拶に先立ち、先ず横断幕をご紹介します。この力作

は「書道サークル」の皆さんに休日返上で書いてもらいました。力強い運筆は、正に鶴見高校の新たな出発にふさわしいではありませんか！ありがとう、みなで拍手を送ろう！

さて、本校は昭和16年藤棚の第一中学（現希望ヶ丘高校）に横浜第四中学として開校しました。四中となるころでしたが、大口に日大四中があったため、混乱を避けて、「鶴見中学」となったのです。そして、昭和18年10月23日この鶴陵の丘に新校舎ができ移転。そこで、この日10月23日を開校記念日と定めたのです。その後、昭和23年新生「県立鶴見高等学校」へ、昭和25年「男女共学」となり、現在に至っています。

ここで、本校のOBで、教鞭もとられ、最後は校長となられた水沼先生とのお話を紹介します。

70年間に2万を超える卒業生を排出、各方面で活躍されています。そして今、県鶴で学ぶ皆さんは、懸命に自らの高校生活を創っている。それは取りも直さず県鶴の歴史を刻むことでもある。一人ひとりが、県鶴の歴史の担い手なのです。それを自覚してほしい。横浜第四中学であるこの鶴見高校生であることに誇りを持って生き、一段と素晴らしい学校にしようではありませんか！

最後に、創立70周年を機に、校訓を定めることとした。

先生方からいただいた提案のうちから、高田先生からのご提案のものにしました。

校訓は 『 探求 真善美 』 です。

真とは認識上の真、善とは倫理上の善、美とは審美上の美 であります。

校歌二番に『真清水深き三ツ池の鏡に磨く真善美』と歌に継がれています。

諸活動において、「真・善・美」の探究 を心がけ、己を磨いてください！

重ねて言う、県鶴生であることに、誇りと自信を持って歩み、皆さんの手で県鶴に新たな歴史を刻んでいただき



水沼先生との話の一幕

- ・S18年校舎ができて移転のときは、本当に嬉しかった。藤棚から歩くのも、なんにも苦でなかった。
- ・もっとも戦争で勉強どころではなかった
→ 動員（工場の仕事、農業など）
- ・敷地は小仙塚古墳の跡地
- ・防空壕もある（東側）
- ・銀杏の木は、水沼先生の代の卒業記念樹とか
- ・桜の木は、三ツ池公園の桜を分けてもらったとか

校訓

探求 真善美

たい。

ホームページに掲載するに当たり、一言加えさせていただきます。こうして創立70周年を迎えることができましたのも、教育委員をはじめ地域の皆様のご支援の賜物と感謝申し上げます。創立70周年を「新たな出発点」とする所存ですので、変わりませぬご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

PTA会長のお祝いのことば

皆さん、おはようございます。

「県立鶴見高等学校 創立70周年、誠におめでとうございます。」

まずは、PTAを代表し、心よりお祝いを申し上げます。

また、次なる節目に向けた、「70周年を祝う全校集会」にお招きにあずかり、誠にありがとうございます。本日は、この素晴らしい節目に同席することができ、たいへん、光栄に思っております。

鶴見高校の発展は、それぞれの青春を舞台に、在校生の皆さんはもちろん、多方面で活躍される卒業生の方々、人材育成・教育指導にご尽力される先生方、また、本校をご支援くださる地域の皆様、そして、暖かい心で子どもを支える保護者の皆様、などたくさんの方々の絆が、70年の時の間に重なり、母校愛とともに、いまなお、躍進し続けるものと感じております。

さて、本来であれば、今年は、私たちにとっては70周年を祝う輝かしい一年になると思っておりました。しかし、皆さんの心にも鮮明に残る震災を体験し、日本全体がいま尚、困難な課題に直面しております。

これまで震災からの復旧は、関係者の皆様の誠実さと責任感で進められてきたと思います。どうか皆さまも、これからの未来に向けて、いかなる課題にも誠実に向き合い、今、出来る事を、いまを生きる事を一生懸命に行っていきましょう。そして、忘れられない今年を大切にしていきましょう。

時代の変化が加速する今、教育現場を取り巻く環境は「進路」や「教育」の機会をはじめ、「生徒指導」などにおいて、様々な課題もございますが、神奈川県立鶴見高等学校が、歴史の中で培われた「伝統」や「経験」を生かし生徒全員の笑顔のもと、さらなる飛躍をとげられますことを祈念いたしまして、PTAからのお祝いの言葉とさせていただきます。



PTAより次の記念品贈呈がありました。

- ・体育館ステージの演台
- ・冷凍庫2台
- ・体育館用パイプ椅子300脚



創立70周年おめでとうございます。

この70年という節目に居合わせ幸せを感じています。卒業して50年以上たっている私が鶴高生活を送ったのは、鶴高がまだ誕生してそう経っていないころ。それにしても古びた木造校舎でした。戦争をはさんで校舎もいろいろに使われたからなのでした。

男子校が共学になって2期目、まだ学校は男子校の雰囲気をつつりと残していました。モルタル塗の家庭科室だけが、新しかった記憶があります。運動場は今と変わらず、フォークダンスや仮装行列をした思い出が、なつかしく思い出されます。

高校時代は、子どもから大人になる自分の基礎を築く時。歳を経れば経るほどなつかしく思えるのかもしれませんが。

生物には臨界期というものがあり、その時期を過ぎてしまうと学習しても身につかないのだそうです。(新聞記事「クルマの殻を割れないリス」引用)

人生一番の実りのとき、精いっぱい力をつけ、充実した高校生活を送ってください。

同窓会より次の記念品贈呈がありました。

・体育館ステージ緞帳一式(写真)

